

第5 回特別支援学校作業技能大会に参加して

高等部1年3組 M. I

私は、8月9日にビッグパレットふくしまで行われた作業技能大会に参加しました。作業技能大会に出るために、陶芸班では、夏休みも作品を作り、発表の練習を行いました。皿とブックエンドを作り、忙しい毎日を過ごしました。皆で協力して作ったので、作業技能大会の前の日に、無事、展示する作品を完成させることができました。作業技能大会で、私は陶芸班で作ったブックエンドをどのようにして使うのか等を発表しました。多くの人が見に来てくださり、とても緊張しましたが、みんなに聞こえるように大きな声で発表することができました。陶芸班の作品は、最優秀賞をとることができました。私はすごいと思いました。夏休みに学校に来て、心をこめて作品を作ったからこそ、賞をとれたのかと思うと、うれしい気持ちで胸がいっぱいです。

高等部2年1組 Y. S

私は、開会式のおわりの言葉とレザークラフト班のお手伝いに参加しました。開会式のおわりの言葉では、家で何回も練習をして、みんなが聞きやすくなるように話し方を意識しました。そのため、当日の開会式のおわりの言葉では、緊張しませんでした。

レザークラフト班のお手伝いでは、夏休みも作品作りや発表のアドバイスをやりました。最優秀賞はとれませんでした。2つの賞を受賞することができ、とてもうれしかったです。技能大会で学んだことを生かし進路実現に向けてがんばりたいと思います。

高等部3年1組 J. N

私は、作業技能大会のビルクリーニング検定に出場しました。技能大会に出場する為に、ビルクリーニング講習会に参加したり、作業学習の授業で練習したり、夏休みの間も登校し、練習に励みました。最初のうちは、気持ちが焦ってしまい、壁にダスターやモップの毛先が触れるなどの失敗をしてしまい、スムーズにできませんでした。しかし、先生からアドバイスを貰ったり、励ましの言葉を聞いたりして、努力するうちに、スムーズに掃除をできるようになりました。当日は、緊張で上手くできるかという不安と、一番になるというプレッシャーに駆られて、本番の時にガチガチになってしまい、最初のダスターが壁に当たってしまいました。その後は、失敗なく行うことができました。努力した結果、ダスタークロス部門、モップ部門、テーブルクロス部門の全てにおいて、一級を取ることができました。全て一級を取ったのは、本校で二人目ということで、とても嬉しく思いました。今回の経験と努力を生かして、学校や学校以外でも、役に立てるよう頑張りたいです。



福祉サービス事業所見学を終えて

小学部第2学年6組担任 永峯美緒

グループホーム「はちどり」の代表は、以前本校に勤務したことがある方で、思わぬ懐かしい再会となりました。代表のお話では、「普通の家庭のように」との言葉が印象的でした。限られた予算の中で、食事は出来るだけ手作りし、時には近くの温泉や、音楽堂のコンサート等に行き、外食をすることもあるそうです。

就労継続支援A型事業所「Cafe 桑の実」では、実際にランチをいただきながら、就労訓練の様子を見学させていただきました。接客する人、調理する人と自分の得意なところを生かした就労訓練でした。事業所とは知らずに、「おいしいから」食べにきている方も多いカフェです。どちらの施設も地域に根ざし、自立を目指した施設です。学校として何ができるのか、考えさせられた見学となりました。

中学部訪問学級担当 能呂順子

福島市北沢又にあるNPO法人リングの木で運営されている「はちどり」と、笹谷にあるNPO法人天使の唄で運営されている「りら」の2つのグループホームを見学させていただきました。どちらも一戸建住宅で、プライベートを尊重した個室と憩いの場である共同スペースの調和がとれており、入居者の方が自分に自信を持って生活されている様子が伺えました。スタッフの方から、一人ひとりに応じて就労から家事全般、家族へのサポートをされている話をお聞きし、その細やかな心遣いに感銘を受けました。また、天使の唄で運営されている就労継続支援A型事業所「Cafe 桑の実」で、実際に就労訓練をされている様子も見せていただき、在学中に身に付けるべき力を改めて考えさせられた研修でした。

高等部第3学年4組担任 齋藤みち子

梁川にあるB型事業所「工房ひろせ」と生活介護「さくら」、移行支援事業所・A型事業所「すずらん工房」を見学させていただきました。どちらの事業所も、作業種が豊富で、利用者の方の実態やその地域のニーズに応じて、内容や支援の方法を工夫されていました。働くことの楽しさを実感している、利用者の方々の姿が印象的でした。働き手として自信を持って仕事をしている卒業生と再会することもできました。

施設の方とお話の中で、どのような思いで事業を進めてきたかを伺い、気持ちが引き締まる思いでした。働く場を提供していくために、現状に止まらず新しいことに挑戦し続けている方々の姿は、日々の子供たちと向き合う姿勢を問い直す機会ともなりました。

